



のら書店 〒102-0074 千代田区九段南 3-9-11-202

一平くん シリーズ4 『もしかしてキセキ』 発売!

全国の一平くんファン待望の最新刊!

『すてきなひとりぼっち』『ぼくは、ういてる。』『ちょっとだけともだち』が大好評の一平くんのおはなし。最新刊は、メキシコからやってきた転校生カルロスくんが登場します。今回も一平くんと一緒にドキドキしたり、感動したり、心動かされる1冊。著者のなかがわちひろさんにインタビューしました!

カルロスくん誕生秘話

——一平くんのおはなしも4巻目になりましたね。今回はメキシコからカルロスくんが登場。どんな思いを込められた作品でしょうか?

(なかがわちひろ)以下、(N)「通じる・通じない」ってどんなことかなと、ぼんやり考えたのが始まりでした。私たちがおもに言葉を介してコミュニケーションをとりますが、言葉って難しい。どんなに言葉を尽くしてもわかってもらえないことや、空疎な言葉の洪水もある。むしろ、言葉をしゃべらない犬や猫とのほうが心が通うときもありますよね。

日本語が通じない同級生が現れたら、

一平くんはどうするのかと興味がありました。

——カルロスくんは初登場のキャラクターで、日本語が流暢に話せないのでも、セリフも少ないですが、でも、その個性はしっかりと伝わってきます。自分の気持ちがちんとあつて、友だちの子なんだ、と、私も一平くんと共にカルロスくんを好きになっていきました。カルロスくんのキャラクターはどのように生まれたのでしょうか?

(N) 最初はアフリカの少年を想定していました。なるべく遠い世界の子がいいたらいい。けれどそのうち、日本人のように見えるのに言葉や文化背景が異なるほうがテーマがはつきりするかと考えて、両親のどちらかが日本人の

少年に変えました。出身をメキシコにしたのは、私も短期滞在をしたことがあるからです。異国にルーツのある子どもは早くから自分のアイデンティティを深く意識するように感じます。黒い長髪を若侍のようにきりりと結んでいる姿を思い浮かべたとき、カルロスくんが動きだしました。

——きりりとしたヘアスタイル、そして目線に彼の性格がにじみでています。彼の家族にも裏設定があるとか…。

(N) 読者が好きなように想像してくださればよいのですが、カルロスくんのお父さんは日系メキシコ人です。祖母の代にメキシコに移住した三世なので日本語はしゃべれません。でも日本文化に強い関心と憧れがあります。じつは画家です! だから自分が描いたカメの抽象画を家に飾っているのですが、どうやらカルロスくんには評価されていないようです。(笑)。お母さんのマリア(ひそかに命名)は、もはやどこがルーツと言えないくらいさまざまな人種がミックスされたメキシコ女性。明るく温かな人柄で、すぐに身体をゆすって踊ってしまいます。南米の友人3人をモデルにしました。

そうそう、一平くんがお土産にもらった「おやつ」はタマレスといって、トウモロコシの粉でできています。地域や家庭によって、いろんな味があるそうです。

——一平くんの家族がタマレスを食べながら話すシーンはとても素敵。家族でリラクセスして話していると、意外な気づきがあるんですね。

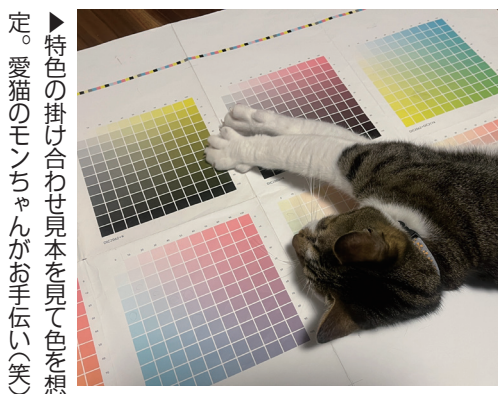
心を映す色の表現

——今回も色が非常に美しいですね。制作中に印象的だったことがあれば、ぜひ教えてください。

(N) このシリーズでは「特色」という特別なインキを使っています。水色、黄色、それにピンクの3色。発色の良いインキですが、なるべく単一で使うのが望ましく、掛け合わせが難しいのです。でも色の幅を広げたいので、毎回、掛け合わせに挑戦しています。

今回、意識したのは後半の薄紫色でした。一平くんの寂しさや、カルロスくんの不安、そして2人の成長を表したかったのですが、はたしてうまくいくのか、ドキドキしながら試し刷りを待ちました。結果は、一発合格! 望みどおりの色ができました。やったね、私、天才かもね!と、いい気になっていたら帯では苦労しました。私の要望に添ってつきあってくれた寛大なデザイナーの森枝雄司さん、吉原印刷さん、そしてもちろん、のら書店に感謝です。

——特色は色校正が出てこない、実際にどんな色なのかわからないのですよね。なかがわちひろさんは掛け合わせ見本をご覧になって、脳内で想定して色を決めていらっしやるので、本当にすごいのです! 森枝さんも…。



▶特色の掛け合わせ見本を見て色を想定。愛猫のモンちゃんがお手伝い(笑)

いる一平くんシリーズについて、今後の展望と、読者の皆さんに一言お願いいたします。

(N) どうやら一平くんは、実在するらしいです。一平くんならどうするだろう、なにを吹くだろうと考えると物語が動きます。私が考えていたのと違う展開になることもしばしばあるのでも、私は一平くんに遠隔操作されているのかもしれない。それにね、現実でも、ちよくちよく一平くんに出会うのですよ。まだ幼稚園生の一平くん、中学生の一平くん、おとなになった一平くんや、おじいちゃんになった一平くんまで…。ひよっとして、皆さんのまわりにもいませんか?



『もしかしてキセキ』なかがわちひろ・作
定価: 本体一五〇〇円+税
一平くんのクラスに、メキシコから転校生がやってきました。名前はカルロスくん。カルロスくんは日本語を話せないけれど、ふたりはなぜか通じあつて…。きつとずっと忘れられない、一平くんの大切な出会いを描いた物語。
※注文は全国書店様までどうぞ!



のら書店の最新情報はホームページよりご覧ください。X、インスタグラム、フェイスブックでも発信中!